

## 第26回全日本ドッジボール選手権全国大会



2016年8月14日  
さいたま市記念総合体育館  
(埼玉県さいたま市)

- 優勝 METS秋原(愛知県)
- 準優勝 月越ストーム(埼玉県)
- 第3位 Vegaes源氏前(東京都)
- 第3位 ANGELS(愛知県)

## 2016 J.D.B.A. 全日本選手権



2016年10月16日  
このはなアリーナ  
(草薙総合運動場体育館・静岡県静岡市)

- 優勝 救世主(東海ブロック予選)
- 準優勝 レッドスターズ福岡(九州ブロック予選)
- 第3位 Heat of Soul(北信越ブロック予選)
- 第3位 RESPECT(関東ブロック予選)

## 第3回全日本女子総合選手権



2016年12月10～11日 ヤマト市民体育館前橋(群馬県前橋市)

### ●シニア女子の部

- 優勝 のーてんき(東海ブロック予選)
- 準優勝 SP-girls(関東ブロック予選)
- 第3位 OVER DRIVE(関東ブロック予選)
- 第3位 DIM☆Regina(九州ブロック予選)

### ●DIGの部

- 優勝 FAN ANGELS(福岡県)
- 準優勝 MITO GIRLS D・B(茨城県)
- 第3位 Onazuka・Sea・Eight(東京都)
- 第3位 東名パワーパフガールズ(愛知県)

## 開催告知

### 第26回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会

日時: 2017年3月26日(日)  
場所: 北九州メディアドーム(福岡県北九州市)

**前を向け。未来たち。**

追いかけて来い。追い抜いて行け。若い君たちの可能性こそが未来だ。

**スポーツくじ**

toto BIG

スポーツは育てることができる。

スポーツくじ(toto・BIG)の収益は、日本のスポーツを育てるために使われています。

## 一般財団法人日本ドッジボール協会

http://www.dodgeball.or.jp  
〒105-0004 東京都港区新橋6-4-3 ル・グラシエルBLDG.7-405  
TEL.03-5776-1830 FAX.03-5776-1840



このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

# ドッジボールニュース

Vol. 6  
2017.01

このドッジボールニュースは、スポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています。

## 第3回ADCカップ アジアドッジボール選手権 香港大会、開催



スポーツ振興基金助成事業  
独立行政法人日本スポーツ振興センター

昨年の11月26、27日の両日、香港で開催された「第3回ADCカップアジアドッジボール選手権香港大会」。4チーム編成で出場した日本代表チームは、男子・女子・小学生女子が優勝を勝ち取り、小学生男子は準優勝に輝きました。本大会に選手団団長として参加された京極 努理事長による大会レポート、代表監督による大会総括をご紹介します。

### 実力伯仲も、男子・女子代表とも3連覇！ 12歳以下の男子準優勝、女子優勝の成果を上げる。

前回の台湾大会において、台湾をはじめ各国間の実力が伯仲していることを実感した日本代表は、9月に兵庫県で事前強化合宿を敢行。選手同士のコミュニケーション向上、連携強化に力を注ぎ、大会本番を迎えました。

遠征初日、成田空港で結団式。日本代表ユニフォームを身にまとい緊張した面持ちの選手を前に選手団団長として激励の挨拶、続いて後援会の横断幕をバックに記念撮影を行いました。香港到着後、専用バスに乗車し宿舎へ。各国選手団と共に合宿施設で2泊3日の共同生活を始めました。選手たちは慣れない食事に苦労しながら、何とか香港での生活に順応しようとしていました。夜には歓迎レセプションが行われ、菅谷潤選手がステージ上で「PPAP」のパ

フォーマンスを披露、会場を沸かせました。遠征2日目、開会式に続き予選が始まりました。選手たちはやや硬さが見られるものの徐々に本来の力を発揮し、男女とも危なげない試合運びで予選を全勝で終了。小学生は台湾勢のパワーに圧倒される場面もあり、男子は台湾に破れる波乱もありました。予選終了後、繁華街へ繰り出し、食事や買い物を楽しみました。

遠征3日目、アジアカップ史上初のオープン(屋外)コート! 台湾や香港では当たり前でも、日本選手は当惑。それでも「決めるときは決める」のが日本の強さ。男女とも圧倒的な力を見せ付け、大会3連覇を果たしました。小学生女子は苦しみながらも台湾を撃破、小学生男子は僅差で惜しくも破れ、準優勝

という結果でした。表彰式では各国選手と記念撮影をしたり、グッズを交換するなど交流を深め、夜にはホテルで祝勝会を行い、お互いの健闘を讃え合いました。

本選手権では、回を重ねるごとに各国の実力が向上し、日本の独壇場ではなくなりつつあります。また、他国選手団は日本の戦術を研究し、対策を練っていることも分かりました。今後は、選手層をさらに厚くするために各地域でのシニア大会を増やし、選手強化を推進していくことが必要であると痛感しています。参加国が増え大会が発展していく中で、日本がその中心で居続けるためにも、日本代表事業の充実努めたいと思います。



3連覇を達成したA代表男子チーム(左)とA代表女子チーム





# 第3回ADCカップ アジアドッジボール選手権香港大会、開催

## 勝ちを意識した代表チーム作りと アジアでの普及・レベルアップを目指して



吉田隼也さん  
日本代表選手兼任総監督

まずは日本代表のアジアカップ遠征にあたり、たくさんのご声援やサポートをくださった皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。4カテゴリー共に素晴らしい成果を上げ、帰国することができました。

2013年の第1回日本大会、14年の第2回台湾大会、そして隔年開催となった16年の第3回香港大会と、アジアカップは早くも3回を数

えます。回を重ねるごとに大会までの流れも洗練され、今大会では例年の選考合宿を経てのアジアカップ代表発表後に、代表のみで直前合宿を行うことができました。直前合宿では、選考合宿ではできなかったアジアカップに向けた戦術確認と選手のレギュラー争いを意識した練習を行い、アジアカップを戦う具体的な準備、そして士気の向上に成功しています。

フィジカルの強さが目立つ台湾や香港に対して、技術、戦術、そして何より積み重ねてきた歴史で勝る日本は、戦術面での準備をより周到に行うこと、さらにはそれを遂行する選手たちの役割を明確にし、競争を行い、チームに仕上げることで日本のドッジボールの実力を確実に表現できると判断しました。無事、素晴らしい成果を上げられたと思います。とはいえ、異国の地という慣れない環境の下、優勝を求め求められる中での戦いは、選手たちにとって大きなプレッシャーになったと思います。「当然の結果」の中にある努力と労を、どうか温かくねぎらってあげてほしいと心から願います。

今後の国際的な競技ドッジボールの飛躍のためには、アジア各国のさらなる大会への参画と技術レベル向上が必須であると思います。私個人としては、現在の日本国内での普及活動とともに、アジアへの普及、技術向上の支援も行うことができたらと思う次第です。また、第4回大会の開催に際しては、日本からより一層素晴らしい選手や指導者、支援者の方々が集まり、素晴らしい日本代表チームを構成できるよう願っています。

最後に、今大会参加にあたり多くのご支援をいただいたスポンサー各社さま、代表を一番近くで支えてくださった日本代表家族会・後援会の皆さま、そして日本からご指導・ご声援をいただいたすべての方々に、改めて感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。



## 事前合宿で戦術連携を強化。 完全優勝で3連覇に輝く！



齋藤羽純さん  
日本代表女子監督

女子選手は未成年が多く、精神的に未熟な半面、プレーの面ではパワー・スピード・スタミナともに最も脂が乗った時期であり、中心的なポジションを担う選手がたくさんいます。チームづくりでは、20歳以上の経験のある選手たちとうまく連携を図りながら、いい雰囲気を作れるよう意識しました。また、アジアカップにおいては、屋外コートでの試

合や食事、衛生面などで厳しい環境におかれながらも、選手たちは本当に頑張ったと思います。

これまではスケジュール的に戦術面での連携を深めることが難しかったのですが、今回、本大会前に戦術合宿を実施していただいたので、より細かい連携が図れました。おかげで、第1回大会から選手たちに徹底させてきたものが実を結んだと実感できた試合もありました。1セットも落とさずに3連覇できたことは、私自身最低限の役割を果たせたかと安堵しています。

最後になりますが、たくさんのお声援をありがとうございました。ドッジボールの未来を明るくするために、代表チームの存在がその希望となるよう、これからも頑張ります。

### ■アジア大会結果

男子代表		女子代表	
優勝	日本	優勝	日本
準優勝	台湾	準優勝	台湾
第3位	香港A	第3位	香港B
第4位	香港B	第4位	香港A
12歳以下男子		12歳以下女子	
優勝	台湾	優勝	日本
準優勝	日本	準優勝	台湾
第3位	韓国	第3位	香港
第4位	香港	第4位	韓国



見事優勝に輝いた12歳以下女子(左)と、準優勝の12歳以下男子



# 「SMILEドッジスクール」2016レポート

2014年度よりスタートした「SMILEドッジスクール」。

2016年度は、これまでのドッジボールの普及活動に加え、新たに「食育プログラム」を導入し、全国の4カ所で開催しました。

ドッジボールと食育の関係について、本プログラムにご協力いただいた

「親子で楽しむ食育教室ベジスタ」主催者・徳重安枝さんに寄稿していただきました。

### 2016年度「SMILEドッジスクール」開催概要

- 第1回(5月15日)：福岡県北九州市  
(食育プログラム：食べ物あてクイズ)
- 第2回(5月29日)：鹿児島県出水市  
(食育プログラム：食育クイズ)
- 第3回(6月05日)：福島県白河市  
(食育プログラム：食育セミナー「朝ごはんの学力・肥満」)
- 第4回(7月10日)：青森県弘前市  
(食育プログラム：紙芝居)



## スポーツと食の両方で、 子どもたちの元気を応援したい。



徳重安枝さん  
管理栄養士

初めまして。「親子で楽しむ食育教室ベジスタ」(<http://vegesta.jp/>)を主催している管理栄養士の徳重安枝です。

一昨年、京極 努理事長より「SMILEドッジスクール」への「食育プログラム」導入についてお話をいただきました。この事業は、ドッジボールの普及のみならず地域の子どもの「元気」を応援することも目的としており、健やかな成長を見守り支えるための取り組みの一つとして「食育」を取り入れるというものでした。

一方、ベジスタでは「子どもたちに『豊かな食生活』と『健康』の両立を目指してほしい」という理念を掲げています。つまり「子どもたちの健やかな成長を見守る」という点で共通の目的を持っていることから、喜んでこのお話を受けさせていただきました。

全国4カ所で開催されたスクールでは、幼児・小学生とその保護者向けに、全部で4種類の食育プログラムを実施しました。子ども向けでは、媒体として紙芝居やクイズパネル、野菜や果物を使用し、楽しみながら「食べもの」と「カラダ」の関係について一緒に考えてみました。小学生の部では、保護者の方々に別室に集まっていたいただき、「朝ごはん」の欠食が及ぼす「学力」や「肥満」への影響についてお話ししました。



プログラムを通じて保護者の方々からたくさんの質問をいただき、大勢の方が多かれ少なかれ「食」についてさまざまな疑問や不安を抱えていらっしゃることを実感しました。

子どもの食生活習慣の形成は、その親御さんたちに左右されます。一見子ども向けと思われるプログラムでも、大人向けにメッセージを込めて実施しました。参加してくださった親御さんたちが子どもたちの食や健康について考え、また日頃の食生活を振り返るきっかけになったのであれば、意義のあるプログラムになったのではないかと思います。

